

第 5 回「初期日本語教室での実践のふりかえり」

主催者ふりかえり（KEPT）シート まとめ

【主催者】 8 人 ※ 1 名提出なし

（内訳）行政職員 3 人（磐田市 1 人、菊川市 2 人）

国際交流協会スタッフ 2 人（磐田国際交流協会 1 人、袋井市国際交流協会 1 人）

県多文化共生課 2 人、県国際交流協会 2 人

●Keep（良かったこと、続けたいこと）

- ・ 磐田市教室の様子を教えてもらえたこと。
色々な立場の人とで情報共有ができ、アイデアをもらえたこと。（松下愛理：菊川市地域支援課）
- ・ 事前準備の微（??）
他市との比較。
現状の再確認。（森優也：磐田市地域づくり応援課）
- ・ 活動しやすい環境作り。（鈴木美智子：（一社）袋井国際交流協会）
- ・ 各教室お互いの運営方法を知り合える機会を持てた。（和田路也：県多文化共生課）
- ・ 指導者支援者の皆さんが、学習者の笑顔のために取組んで、楽しんでいると発表してくれたこと。
（袖山菜津子：県多文化共生課）
- ・ 地域日本語教室を準備・開催してきた皆さんのリアルな声をきけて本当に勉強になった。ありがとうございました。（片山奈津実：県国際交流協会）

●Problem（気になったこと、課題と思ったこと）

- ・ 地域事情がある中、目先の数字によって、自市活動にネガティブになってしまった。（森優也：磐田市地域づくり応援課）
- ・ 参加者間の意識共有。（鈴木美智子：（一社）袋井国際交流協会）
- ・ それぞれ（磐田・菊川）の教室の写真が説明付でみる場面があるとよかった。（和田路也：県多文化共生課）
- ・ 磐田市の学習者が減っていること。（袖山菜津子：県多文化共生課）
- ・ 地域日本語教室を運営してきた皆さんと比べ圧倒的に経験が足りないと感じた。（片山奈津実：県国際交流協会）

●Try（改善したいこと、チャレンジしたいこと）

- ・ 力を抜く。
楽に構える。（森優也：磐田市地域づくり応援課）
- ・ 参加者の名前と顔をすべて覚え、こまめな声かけ。（鈴木美智子：（一社）袋井国際交流協会）

- ・実際に相互に見学してもらうことで更に自分の教室のよさ、改善点を見つける機会をつくる。(和田路也：県多文化共生課)
 - ・学習資料の電子化。
- 来年度以降の教室の継続のあり方について。(袖山菜津子：県多文化共生課)
- ・教室に行ってみたい。いまいちど、愛知県教材をじっくり見てみたいと思った。(片山奈津実：県国際交流協会)